



ひなどり

園だより 7月号
令和元年 6月28日
新潟市立新津第三幼稚園

「早期教育」の、何が問題か？



園長 間嶋 哲

先日、隣の新津第三小学校で、一年生の子どもたち対象の鍵盤ハーモニカ講習会がありました。教えに来てくださった先生と、校長室で「早期教育」の話になりました。

その方は、普段ピアノの先生をされていて、早い子どもだと1歳あたりから通ってくるとのこと。その事実に驚くとともに、果たして1歳の子どもの「ピアノを弾きたい」という強い気持ちなど、判断することなどできるのかと疑問に思いました。

前の話を受けて「1年生でも、きっと最初からサラッと演奏できる子どももいるでしょ」と水を向けると、「確かにそうです。今は、幼稚園や保育所で鍵盤ハーモニカを教えているところも多いので」というお話でした。振り返れば、当園も含めた市立幼稚園では、鍵盤ハーモニカを教えてはいません。なぜならば、文部科学省の幼稚園教育要領には、「リズム楽器」という言葉はありますが「鍵盤ハーモニカ」という言葉はないからです。ちなみに鍵盤ハーモニカは「リード楽器」です。

続いて、次のような話をしてくださいました。「でもね、幼児の頃に習っていて、変な癖がついてしまっている子どももいます。全く習っていない子どもの方が、逆に伸びる場合も多いのです。」

その話を聞いて、私自身も小学校1年生の担任をしていたときのことを思い出しました。入学したばかりなのに、平仮名、時には漢字がスラスラ書ける子どもは確かにいました。しかし、その後を見ると、結局、周囲の子どもと同じようになっていくのが現実なのです。

私の専門教科は、算数・数学です。明治・大正時代の教育者に、広田虎之助さんという人がいました。その著書『聚楽式算術教授法』で、次のように述べています。

出来る時に乗じて、出来ることを教えず、
出来る時期を待たずして、出来ないことを教え、
出来る時期を待たずして、出来ないといって殺す、
小学生における算術の成績よくなり、
これをいわゆるなしとせんや

早期教育がすべて悪いとは思いませんが、もし悪い影響があるとすれば、目の前の子どもの様子に目もくれず、指導者や親の都合で押し付けることなのかもしれません。自戒を込めて。

